

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1 【いきる】 2 【かかわる】 3 【そなえる】	③ 【夢や希望の大切さ】 ⑪ 【ボランティア】 ⑬ 【地域づくり】 ⑮ 【東日本大震災津波の様子と被害の状況】	行事

【題材】

山田町訪問 【SMILE DAY】

【対象】

全校生徒 28名 (保護者4名と地域の方11名も手伝いのために参加)

【実践の概要・詳細】

山田町訪問 9月6日(土)

(1) 仮設住宅の訪問 【SMILE DAY】

生徒会執行部を中心に、生徒会が【SMILE DAY】を企画。

当日は、生徒・保護者・地域の方が2グループに分かれ、間木戸仮設住宅と町民グラウンド仮設住宅を訪問。



- ① H25年度の山田町訪問についての報告
- ② 合唱「歩 ~aruku~」
- ③ 社会福祉協議会への寄付金贈呈  
※アルミ缶回収や生徒会バザーの収益金を寄付
- ④ まめぶ汁の振る舞い  
※保護者・地域の方々に手伝っていただき、まめぶ汁とおにぎりを準備

(2) 境田虎舞の見学

- ① 虎舞についての説明・見学
- ② 寄付金の贈呈  
※アルミ缶回収や生徒会バザーの収益金を寄付
- ③ インタビュー  
※境田虎舞に所属する6名の方にインタビュー

(3) 奉仕活動(ごみ拾い)

※山田町中心部のごみを拾う



【具体的な実践について】

(1) 仮設住宅の訪問【SMILE DAY】

- H25年度の山田町訪問で学んだことや感じたこと、自分たちの考えなどを発表した。
- 復興への思いを「歩~aruku~」に込めて歌った。
- アルミ缶回収や生徒会バザーの収益金から、それぞれの仮設住宅を管理している社会福祉協議会の方に寄付金を贈呈した。
- 保護者や地域の方に手伝っていただき、まめぶ汁とおにぎりを仮設住宅に住むみなさんに振る舞った。



(2) 境田虎舞の見学

- 山田町の伝統芸能のひとつである虎舞を見せていただいた。
- 代表者の方のお話やインタビューを通して、震災後の苦労や、大変な状況の中でも地元の伝統芸能を守り続けようと努力している様子を知った。
- 同年代の中高生が、地元を元気づけるために伝統芸能を守ろうとしていることを知った。
- アルミ缶回収や生徒会バザーの収益金から、境田虎舞のみなさんに寄付金を贈呈した。

(3) 奉仕活動（ごみ拾い）

- 奉仕活動として、2グループに分かれ、山田町中心部のごみ拾いを行った。

【生徒の感想】

- 震災から3年以上が経っても復興がまだまだ進んでいないことがわかった。仮設住宅で過ごしている人たちの思いや、復興が進まない状況の中でも明るく前向きに生きている人たちがいることをたくさんの人に伝えていきたいと思った。
- 今、私が山田町のみなさんのためにしてあげられることは元気を届けることだと思った。私はこれからも自分にできることをして復興に関わっていきたい。
- 私にできることは「忘れないこと」。震災のことや山田町訪問で学んだことを一生忘れない。そして「伝えること」。被災地の状況をどんどん伝えていきたい。みんなが復興について考えてくれる、そんな世の中になってほしい。
- 被災した・しないに関係なく、みんなで復興に取り組んでいくべきだと思った。

【まとめ】

1年生は今もなお震災の爪痕が残る街並みに地震や津波の恐ろしさを感じていた。2・3年生にとっては昨年に引き続き2度目の山田町訪問となったが、予想以上に復興が進んでいない現状を目の当たりにし、もっと自分たちが復興のために何かしなければという思いを強くしていた。

今回の山田町訪問は、昨年度の訪問を受けて生徒会執行部と3年生が中心となり、山田町のみなさんのためにできることを考え、自分たちの手で準備を進めた。保護者や地域のみなさんの協力を得ることで、地域を巻き込んで「復興」について考えを深めることができた。



【保護者・地域の感想】

復興が進んでいない山田町の状況に驚いた。仮設住宅に住む方が、私たち一人ひとりと握手して帰っていく姿を見て、今回参加できて本当によかったと思った。虎舞にも感動した。



## 【授業の展開】

- (1) 全校オリエンテーション
  - H25 年度山田町訪問を振り返り、今年度の活動についての確認をした。
- (2) SMILE DAY に向けた発表練習・合唱練習
  - 生徒会執行部を中心に、SMILE DAY を通して山田町のみなさんに笑顔と元気を届けることを目標とし、発表練習や合唱練習を行った。
- (3) 話し方講座 10月4日(金)
  - 講師に田原美晴さんをお招きし、話し方講座を行った。聞いてくださっている方により伝わる発表にするため、話し方のポイントなどを教えていただいた。
- (4) まめぶ講座
  - 講師に木地谷シキさんをお招きし、久慈市の郷土料理であるまめぶの作り方を教えていただいた。
  - 保護者や地域の方にも協力していただき、山田町訪問に向けて約1000個のまめぶを作ることができた。
- (5) 文化祭発表 11月27日(日)
  - 山田町訪問の様子や自分たちの復興に対する考えを「いきる」「かかわる」「そなえる」の3つのテーマに沿ってパワーポイントにまとめ、保護者や地域に向けて発表した。
- (6) 暑中見舞い・年賀状等での交流
  - 昨年度インタビューをさせていただいたみなさんと、暑中見舞いや年賀状で交流を続けている。
- (7) 記録集の作成
  - 全校生徒が、山田町訪問について個人新聞(B4サイズ1枚)にまとめた。



## 【生徒の感想】～個人新聞より～

- 山田町訪問当日には、話し方講座で田原さんに教えていただいたことを生かして、山田町のみなさんに伝わるような発表ができた。
- 訪問するまでの取り組みでもたくさんの方の協力があった。まめぶ汁を振る舞ったとき、山田町のみなさんがとても喜んでくれて、作ってよかったと思った。
- 復興の状況があまり良いとは言えない状況の今、発表した「これから被災地の復興を支えていくのは私たちだと思う。」という言葉や「被災地の現状を発信していくことが大事。」という言葉をお忘れずに、自分たちにできることを見つけて少しでも被災地に貢献していきたい。

## 【まとめ】

今年度は、生徒会の取り組みのひとつとして、生徒が主体となって活動できたことが大きな成果だった。復興を支えていくのは自分達であることを改めて感じた生徒が多かった。

また、講師の方々をはじめ、地域の方々の力をお借りしながら山田町訪問の準備を進めてきたことで、互いに支え合うことの大切さや地域の方々のありがたさを感じた生徒も多かった。

今後も久慈・岩手に対する郷土愛を育みながら、復興・発展を支える人材の育成に努めたい。



## 【保護者・地域の感想】

今回、山田町訪問に参加し、子どもたちはとてもよい経験をしていると思った。少しでも宇部中の子どもたちや山田町のみなさんの役に立ててよかった。